

## 三宅島火山ガス観測結果

### 1. SO<sub>2</sub>放出量

2004 年 6 月-2004 年 10 月の放出量は 2300-14000t/d で、低い放出量 (<5000t/d) の出現頻度がやや大きいものの、大局的には 2003 年全般と同様。2002 年半ばまでの長期低下傾向と比べると、2003 年以降はほぼ一定。

### 2. 水蒸気放出量

前回報告以降、赤外熱映像に基づく水蒸気放出量の観測結果の追加はない。  
携帯型センサーシステムによる現地観測 (7/24) は 5 月 15 日の結果から変化無し  
H<sub>2</sub>O/SO<sub>2</sub> 重量濃度比=10 (図には SO<sub>2</sub> 放出量 3,000-10,000t/d に対応する放出量を表示)  
今までに推定されている H<sub>2</sub>O/SO<sub>2</sub> 重量濃度比=10 (重量比で約 10) から変化無し。

### 3. CO<sub>2</sub>/SO<sub>2</sub> 濃度比

前回報告以降へり観測による結果の追加はない。  
携帯型センサーシステムによる現地観測  
: CO<sub>2</sub>/SO<sub>2</sub> 濃度比= 1.12 (7 月 24 日)、前回の 0.84 (5 月 15 日) から変化無し  
以前のへり観測の結果から顕著な変化はない。  
CO<sub>2</sub>/SO<sub>2</sub> モル比はほぼ 1 で、全期間を通じて大きな変化はない。

### 4. Cl/S 濃度比

アルカリフィルター法による現地観測 : Cl/S 濃度比=0.15 (7 月 24 日)  
前回 (5 月 15 日) の 0.14~0.18 から変化無し。  
アルカリ吸収液法による結果は 0.1 程度で以前の結果から変化無し。ただしアルカリフィルター法の結果と比較し系統的に低く、手法による誤差である可能性がある。いずれにせよ、時間変化は認められない。

### 5. まとめ

火山ガス放出量、組成共に 2003 年以降はほぼ一定。脱ガス条件 (火道の太さ、マグマ頭位など) が安定していることを示すと考えられる。

